

「大規模イベントの配信時等における情報配信の在り方に関する実証」に係る 事業企画の募集要項

株式会社 電通
大規模イベント配信システム調査事業事務局

1. 本事業の背景と目的

近年、ブロードバンドの普及やスマートフォン等のモバイル端末の普及を背景に映像コンテンツの視聴形態の多様化が進み、多くのサービスプラットフォームを通じて映像コンテンツが提供されるようになり動画配信市場の規模も拡大している。

このような映像コンテンツを取り巻く環境変化は、我が国でも同様であり、最近では、民間放送事業者において、インターネット経由でスマートフォン等に、放送コンテンツを放送と同時に配信する取り組みが始められつつある。

このような取組は、質の高い放送コンテンツをより手軽に視聴でき、また、放送事業者から提供される災害情報が入手しやすくなるなど、視聴者の利便性向上や放送の社会的価値の維持・向上につながることで大きく期待される。

他方、2017年7月の情報通信審議会において示された中間答申*では、複数の放送事業者が連携した実証事業により「災害情報配信」、「字幕表示」など現在の動画配信サービスで提供されていない配信機能等の提供方式及び技術仕様の策定することの必要性について提言されている。

本調査研究では、同時配信を行うにあたって、災害情報等を効果的に配信するための機能や運用面で留意すべき事項など幅広く課題を整理し、実現に向けた課題に対する方策案を取りまとめることを目的とする。

2. 実施概要

大規模イベント時のトラフィック集中による既存の通信システムや通信サービスに与える影響などを整理し、災害情報等が遅延なく配信できるための実証事業（詳細は「3.募集する実証事業の要件」を参照）を通じ、本サービスの実施にあたっての技術、運用面等の課題抽出、及び有効な方策案の検討を行う。

3. 募集する実証事業の要件

実証事業の応募に関し、検証内容に求める要件は以下のとおりである。

(1) 実証事業の内容

実証事業の内容は、以下の要件を満たすものであること。

【実証事業】

実証事業は以下のとおりとする。提案者は、以下に係る検証を行うこと。

検証の観点／事象事業者に事業成果として求める要素	
大規模イベントの配信時等における情報配信の在り方に関する検証	
①	大規模イベント時における通信システムや配信サービスに与える影響の整理
②	配信技術、運用面での課題の明確化・方策案の検討

*「視聴環境の変化に対応した放送コンテンツの製作・流通の促進方策の在り方」（平成28年諮問第24号）に関する情報通信審議会からの中間答申 http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu04_02000070.html

【検証の観点／事業成果として求める要素】

- ① 提案する検証の観点を以下に示す。これらの観点を検証可能な実証として実施すること。

検証の観点／事象事業者に事業成果として求める要素	
大規模イベントの配信時等における情報配信の在り方に係る検証	
①	大規模イベント時における通信システムや配信サービスに与える影響の整理
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大規模イベント時等の視聴規模と配信システムの関係性の整理 ■ 実証時の視聴データ（アクセスPV、トラフィック等）の整理 ■ トラフィック集中時に配信事業者へ与える要素の抽出
②	配信技術、運用面での課題の明確化・方策案の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 配信規模や配信システムへの負荷の関係性の整理 ■ 放送コンテンツを配信するためのシステム運用・管理の在り方の整理 ■ 安定的な品質を確保するために監視すべきパラメータの整理（映像品質、遅延、パケットロス、遅延の揺らぎ等） ■ バースト的なトラフィックが発生した場合の対応方策 ■ 運用上留意すべき観点の整理

- ② 実証事業の実施内容が具体的であること。
- ③ 課題解決に向けて検証すべきポイント及びその方法、成果展開の方針が具体的かつ適切であること。
- ④ 検証を行う場合には、メリット・課題を評価するための観点・方法等が具体的であること。
- ⑤ 情報通信審議会中間答申の内容に適した提案であること

(2) 評価・効果検証及び成果展開

サービスの実現に係る課題の抽出、及び有用性／有効性等を評価するために、以下の要件を満たす効果測定を実施すること。また、本事業の成果展開に寄与するための方策について検討を行うこと。

- 実証事業を通じて、技術・運用面での評価の実施結果を分析し、課題の抽出・整理を行うとともに、実現に向けた方策の検討を行う。
- 効果検証については、実証時の視聴データ（アクセスPV、トラフィック等）を取得し、トラフィックがネットワークに通信システム、通信サービスに与える影響を検証するとともに、課題発生時の対応方策について検討を行う。
- 放送コンテンツの配信を通じた、今後取り組むべき施策（技術・運用面の規格・ルールの策定、検証環境整備、人材育成等）の提言を行い、成果展開に寄与する。

4. 応募要件

事業企画の応募に関し、応募要件は以下のとおりである。

- 放送コンテンツのネット同時配信を行うにあたっての検討という観点から実放送を通じた実証が行える環境にあり、かつ放送事業者との連携ができること。
- 大規模イベント時等との観点から、世間の関心の高い放送波での視聴率が高いイベント関連番組での実証が可能なこと。
- トラヒック集中による既存の通信システムや通信サービスに与える影響の観点から、通信事業者との連携ができること。
- 契約期間中に実証事業の企画、遂行、効果検証、取りまとめを完了できること。

5. 事業企画の選定方法・選定基準・通知

採択する事業企画の選定は、請負主体である電通が、外部有識者及び総務省と協議の上、選定基準に基づき実施する。

採択結果は、電通より採択された事業企画の応募者へ通知する。また、公募募集サイト上でも公表する。

6. 予算規模及び採択件数

事業企画の応募に関し、予算規模も評価条件となる。

採択件数は本事業の予算規模により、1～2件程度を想定している。

7. スケジュール

事業企画の応募に関し、応募締切、採択結果通知、遂行期間（契約期間）は以下のとおりである。

事業企画応募申請書のスケジュール欄には、遂行期間中に効果検証までを完了させることのできる、可能な限り具体的なスケジュールを記載することが望ましい。

応募締切	2018年3月28日（水）17時まで必着
採択結果通知	2018年4月上旬（予定）
遂行期間（契約期間）	契約日（2018年4月上旬）～2018年9月末（想定）

8. 応募方法／問い合わせ先

事業企画応募申請書に必要な事項をすべて記入の上、電子メールにて提出すること。なお、必要に応じて、追加資料等の提出を求める場合がある。

株式会社 電通 パブリック・アカウント・センター内
 大規模イベント配信システム調査事業事務局 担当：出田／戸口
 メールアドレス：ip-system@soumu-contents.jp

- 本事業についての質問は、上記事務局メールアドレスまで、件名に【質問 大規模トラヒック配信システム調査事業】と記載の上送付すること。回答は個別に電子メールにて返信する。
- 質問の受付期間は、募集開始後、2018年3月16日（金）12:00（正午）までとする。それ以降の質問は回答できない場合があるので留意すること。

選定基準表

項目	評価基準
申請形式	
	形式に沿った提案書であり、かつ、全ての項目が記載されている★
実施体制	
	実放送を想定した実証が行える環境にあり、かつ放送事業者と連携した体制である。★
	トラヒックへの影響評価から、配信事業者等と連携した体制である。★
	評価・効果検証が具体的に可能な実施体制となっている。
検証内容	
	大規模イベント時で実証事業が可能な実施内容である。★
	実証事業の実施内容が具体的かつ明確である。★
	実証事業の検証要素が具体的かつ明確である。★
	検証の背景（情報通信審議会における提言等）に適した提案である。★
	スマートフォン、タブレット等のモバイル端末を主に活用した提案である。
	検証の目的に資する成果を期待できる提案である。 （課題解決、実用性に向けた検証ポイント及びその方策案が具体的である。）
	災害情報配信等付加機能について工夫がされている提案である。
	検証を行うための、メリット・課題を評価するための観点・方法等が具体的である。
評価・効果検証及び成果展開	
	課題の整理・分析及び方策の有用性／有効性の評価に係る手法が具体的かつ明確である。★
	実証時の視聴データ（アクセスPV、トラヒック等）による効果検証を実施する。★
	放送コンテンツのネット同時配信の実現に資する成果展開方針となっている。★
	評価・効果検証にあたっての工夫内容が明確に記載されている。
スケジュール	
	遂行期間中に効果検証までを完了させることのできる具体的なスケジュールが記載されている。★
支出計画	
	具体的な支出計画が記載されている。★

※表中の★印は、必須条件であり、1項目でも満足していない項目があった場合、不採用となる場合がある。
★印以外の項目については、加点要素として評価を行う。